

エッセイ



読者のみなさん、明けましておめでとうござい
ます。

2018年。平成30年
という節目の年の真っ白
なキャンバス。

これから、そのキャン
バスを埋めて行く歴史的
事柄が、次々と怒濤のご
とく生起して来るに違
いありません。今を生
きる私たちは、好むと
好まざるにかかわらず、
そのど真ん中に立つ
当事者であり、主人
公、歴史の証人とな
ります。

例えば、我が国を取り巻く国際情勢。益々緊張の度合いを増し、先の見えない混沌とした様相を呈しています。平成の時代の中で最も緊張した局面を迎えています。常に最悪の事態への備えに万全を期すことは不可欠。しかし、私たちの切なる思いはただ一つ。昭和の時代のような悲惨な事態は絶対に繰り返さない、どのような懸案や試練も平和裡に解決されることを置いて他にありません。

昨年の総選挙で国民の大きな負託を受けた安倍首相率いる日本政府の、懸命な政治・外交努力が結実し、国民安堵の中でキャンバスを飾ることを願ってやみません。

私は、かつて広島と沖縄に勤務致しました。

改めて、それぞれの平和資料館、戦跡地等で見えた惨状、被災者の皆さんのお話に震撼したことを思い出しています。

今も基地負担をお願いしている伊江島にも時々伺い

真っ白なキャンバス

(一社)日本東ティモール協会

会長 北原 巖男

(元東ティモール大使)

ました。

「伊江島は蟻一匹いなくなるほどの艦砲射撃を受けました」元伊江村長 島袋清徳氏のお話も忘れることは出来ません。

ところで、私が小さな取

り組みを続けている東ティモール。平和の中、2002年5月20日の独立回復から16年目を迎えます。あの「坂の上の雲」を指して国づくりの真っ只中にあります。しかも2011年3月のASEAN加盟正式申請から8年、来年にも期待される加盟実現に向けた正念場の年です。

このような東ティモールのキャンバスに描かれる国づくりは、国民の目に見え、且つ国民各階層に等しく実感されるものでなければなりません。

そんな中、独立回復以降今日まで、我が国の外務大臣、首相の東ティモール訪問がまだ実現していません。小国ながら地政学的に重要な位置を占め、我が国が輸入する天然ガスの4%近くを輸出している東ティ

モール。我が国にとっても重要な国であることは論を待ちません。国づくりに懸命に汗をかいている、ASEAN加盟前の今年こそが、意義深い初訪問のギリギリのタイミングです。

2019年のキャンバスに、東ティモール訪問が大きく描かれることを心から願っています。

そして、最も大切なことがあります。このエッセイを読んでもくたさっている読者の皆さんひとり一人の、去年とは違うオンラインワンのキャンバス創りです。

主人公はあなた！
力いっぱい Good Luck！です。

(読者の皆さんへ…1年間ご愛読頂き有難うございました。)

「防衛協会会報」2018年(平成30年)1月1日付
全国防衛協会連合会発行